

シンポジウム

「中央分水嶺踏査について」

2004年2月21日(土) 13時～17時

東京グリーンホテル水道橋

主催：(社)日本山岳会 科学委員会  
創立100周年記念事業中央分水嶺踏査委員会

後援：国土交通省国土地理院

## 目次

本日のプログラム	2
シンポジウム開催にあたって	
科学委員会担当理事兼 中央分水嶺踏査委員会委員長 石田要久	3
講演1：地図と分水嶺	
前国土地理院長 星埜由尚	4
講演2：分水嶺の魅力と踏査の意義	
科学委員会委員 近藤善則	8
講演3：北海道主脈縦走と中央分水嶺踏査	
日本山岳会北海道支部長 新妻 徹	12
講演4：中央分水嶺、ここが面白い！	
『日本分水嶺』の著者 堀 公俊	16
パネル・ディスカッション	
「中央分水嶺についておおいに語る」	
司会者 森武昭（中央分水嶺踏査委員会事務局長）	
パネラー 星埜由尚、近藤善則、新妻 徹、堀 公俊、 藤本慶光（日本山岳会総務担当理事）	20
演者のプロフィール	21
資料編	22
計画の概要	
分水嶺地図と支部担当区域（案）	
分水嶺踏査報告 秋田支部	
分水嶺踏査報告 北海道支部	
分水嶺踏査山行報告書記入にあたって	

## シンポジウム「中央分水嶺踏査について」

主催：(社)日本山岳会 科学委員会  
創立100周年記念事業中央分水嶺踏査委員会  
後援：国土交通省国土地理院

### 趣旨

日本の中央分水嶺踏査計画は、もともと日本山岳会創立100周年記念事業の一プランとして科学委員会から提案された企画である。その実行計画については、現在創立100周年記念事業実行委員会が中心になって計画の具体化が進行中である。

科学委員会では、創立100周年記念事業中央分水嶺踏査委員会とともに「地図と分水嶺」「中央分水嶺を踏査することの意義」「北海道主脈縦走と中央分水嶺踏査」「中央分水嶺、ここが面白い！」等々をテーマとしてシンポジウムを開催することにした。シンポジウムにおける講演は、全山岳会員を対象とした啓蒙の糧となり、ひいては、踏査実行段階において、可能な限り多数の山岳会員参加の資となることを目的とする。

対象：日本山岳会会員、分水嶺に関心を持つ登山愛好家

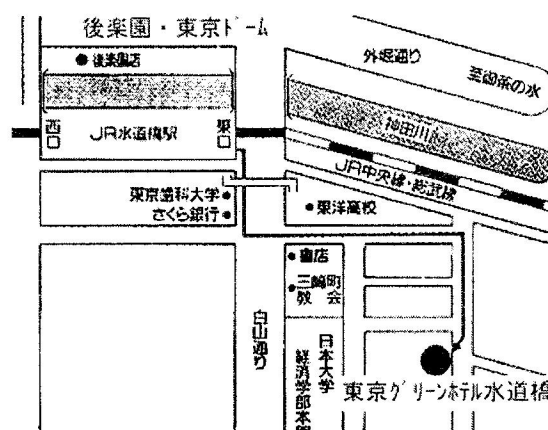
日時：平成16年2月21日(土) 13時～17時

場所：東京グリーンホテル水道橋 2F 広間

東京都千代田区三崎町1-1-16

電話 03-3295-4161

参加費：500円(ただし資料代として。予稿集を配布します)



開会の辞 科学委員会担当理事兼

中央分水嶺踏査委員会委員長 石田要久氏 13:00～13:05

### 講演

講演1：「地図と分水嶺」演者、星埜由尚氏(前国土地理院院長)。13:05～13:45

講演2：「分水嶺の魅力と踏査の意義」演者、近藤善則氏(科学委員会委員)。13:45～14:15

講演3：「北海道主脈縦走と中央分水嶺踏査」演者、新妻徹氏(日本山岳会北海道支部長)。

14:15～14:45

講演4：「中央分水嶺、ここが面白い！」演者、堀公俊氏(『日本分水嶺』の著者)。14:45～15:25

休憩：15:25～15:35

パネル・ディスカッション：「中央分水嶺についておおいに語る」15:35～16:35

司会：森武昭氏(中央分水嶺踏査委員会事務局長)

パネラー、星埜由尚氏、近藤善則氏、新妻徹氏、堀公俊氏、藤本慶光氏(総務担当理事)

質疑応答：16:35～16:55

閉会の辞 科学委員会委員長 福山美知子氏 16:55～17:00

## シンポジウム開催にあたって

日本山岳会・科学委員会担当理事兼  
中央分水嶺踏査委員会委員長 石田要久

地図帖は頻繁にご覧になるでしょうか。常に北が上の地図を見なれているので余り気にならないのですが、南北を逆にして世界地図を見てください。日本列島は氷河期の終わりにユーラシア大陸から切り離されたので、日本海は湖のように見え「私は独立したので再び大陸につきたくない」と日本海の海水を太平洋に逃さないのだと言わんばかりに樺太と朝鮮半島の間を囲んで、北海道から九州まで約2千キロメートル以上細長い堤防を造り、巾の広いところでさえ200キロメートル余りしかないところで頑張っているように見えます。その中央ラインが日本の脊梁山脈で中央分水嶺とほぼ重なります。

しかも日本列島はユーラシア大陸の東縁にあり中緯度で降水量も多く、列島の目の前で太平洋プレートが沈み込んで地殻変動も激しいところです。

そのようなところですから「中央分水嶺とは何か、その学術的定義」「中央分水嶺を境界とする、気象、植生、文化の相違」等いろいろ面白いものがあると思います。

約2千キロメートルにおよぶ中央分水嶺を、日本山岳会では2005年（平成17年）の創立100周年記念事業の一プランとして踏査しようと企画しました。

本日のシンポジウムは登山愛好家を対象に分水嶺について関心を持っていただき、多数の会員が創立100周年事業「中央分水嶺踏査」に参加することを望み、踏査実行段階において幾分かでも糧となることを期待して開催します。

## 講演1 地図と分水嶺

前国土地理院院長 星 埜 由 尚

### 話 の 内 容

山と三角点	...	三角点の種類や成果の管理・公開
山と地形図	...	地図の種類や内容・公開
山と数値地図	...	数値地図の種類や利用方法
分水嶺縦走景観 シュミレーション 分水嶺峠越景観 シュミレーション	...	さらなる活用例
山の名前	...	自然地名が地図に載るまで
山の高さ	...	山の高さは何故変わる

分水界 分水嶺)とは

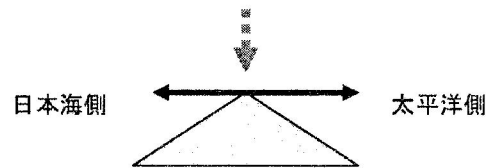
・隣り合った流域の境界線・・・降雨の際、雨水がそれぞれどちらの川に流れこむか分ける境界



・表流水の分水界は一般に山の背や山頂に沿って延びるので、分水界となる山稜を分水嶺とも言う。

中央分水界(嶺)とは

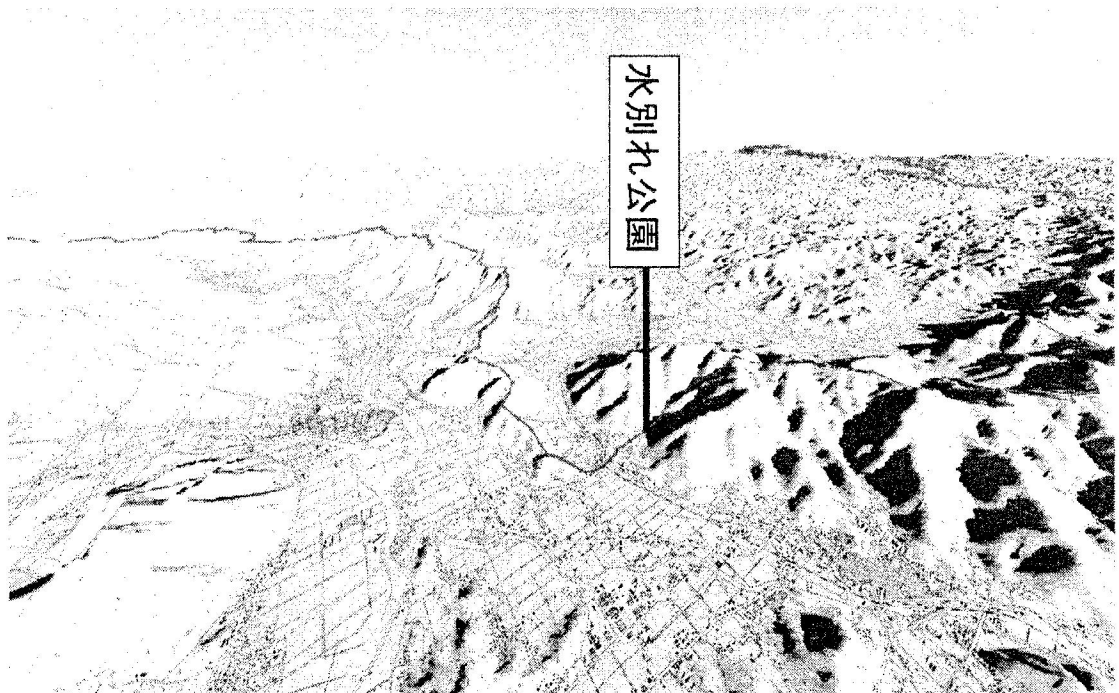
・日本列島を大きく二つに分ける分水界

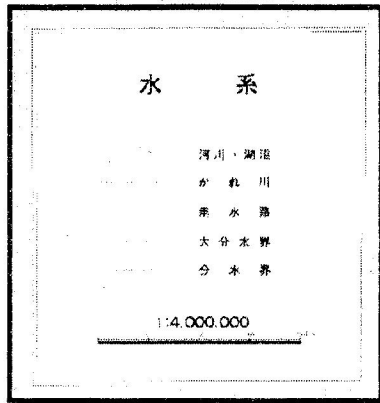


参考:地理学辞典、地形学辞典

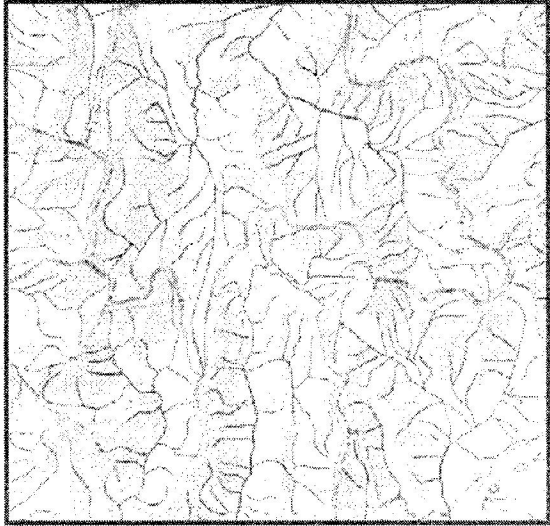
数値地図 標高 50mメッシュデータの利用例

水別れ (みわかれ)日本一低い中央分水界 兵庫県氷上郡氷上町





日本国勢地図



自然地形:水系

### 三角点の点数

一 等	二 等	三 等	四 等
972	5,056	32,699	64,557

(平成15年3月31日現在)

一等三角点「筑波山」  
(女体山山頂)



「休日は、大混雑」

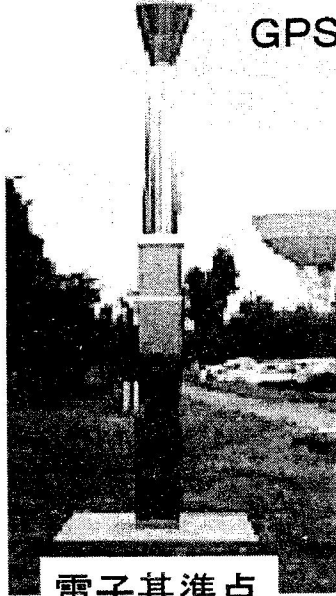
# 電子基準点

1,200点

(平成15年3月31日現在)



GPS衛星



電子基準点

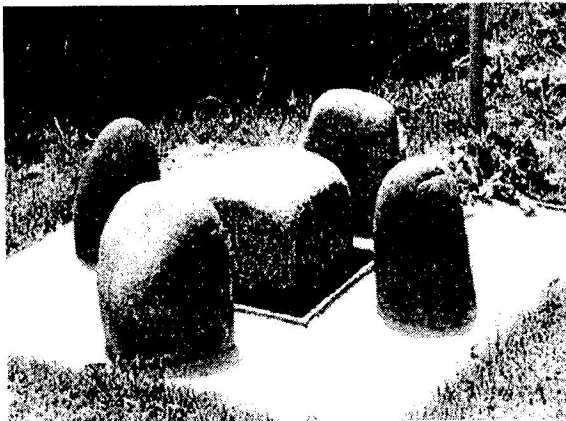


電子基準点設置状況

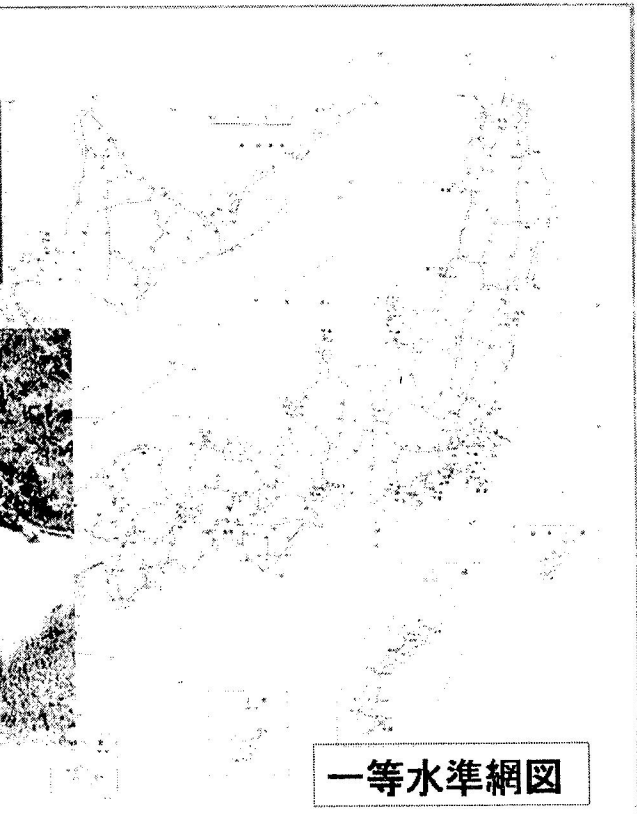
# 水準点

基準	一等	二等
80	15,350	4,569

(平成15年3月31日現在)



一等水準点



一等水準網図



## 講演 2 分水嶺の魅力と踏査の意義

日本山岳会・科学委員会委員 近藤善則

### 1. 分水嶺の概要

分水界は河川からみれば水系（集水域）の境界ではあるが、同じ水系に属する川でも支流の名称が異なればその川どうしの分水界という表現をするので、分水界は至る所に存在する。さしずめ家屋の屋根も分水界ということができる。そしてこの分水界によって日本列島の全てが繋がっているということになる。

山岳地域では山稜が境界になるので分水嶺というが、しばしば県や市町村などの境界に重なり、地域社会の文化や風土の境界にもなっている。

分水嶺（界）のなかで特に大分水嶺（界）という場合は異なる海域を境界とする考えや列島の背稜山脈を考慮した境界で決める考え方があり、若干端部などで線引きが異なる。日本列島の中央分水嶺（界）という場合は大分水嶺のうち日本海側と太平洋側の水系の境界を指す。

副分水界という場合は同じ河川の支流や枝沢どうしの境界。例えば槍ヶ岳に至る東鎌尾根は代表的な副分水嶺で、梓川と高瀬川が安曇野で犀川（信濃川）となる。

学術的には、主分水界（大分水嶺と分水嶺）副分水界としている文献もある。

また、これらは地表（地形的）分水界であり、これに対し地下水系を地下（水文的）分水界と区別することもある。

地球規模で考えると、大陸分水嶺（七つの大洋で分ける）という考え方もある。また中国西域などでは海に注がない河川などがあり、分水界が環状に閉鎖されているところもある。

分水嶺は時として移動したり消滅することがある。一つは人工的に変えられる場合で、瀬変えや用水を作ることによる。もう一つは、河川の争奪という自然現象による場合である。

また一つの流れがあるところで分岐し、異なる河川として流れを分かち点を水中分水、谷中分水というものもある。

### 2. 分水嶺の魅力

分水嶺は地理、地学、河川、森林、文学、歴史、生活文化、交通、などあらゆる分野と密接に関わっており、登山の対象としても興味深いテーマがたくさんある。

#### A. 自然系

1. 気候や風土の境界の役目を強く感じる場所（特異気象、積雪）
2. 地質、地形などの特異な場所（氷河地形の痕跡、カルデラ、河川争奪の痕跡、火山地形、水中分水点）
3. 奇岩、めずらしい岩石などの観察収集、鉱山跡の状況
4. 湖沼、池塘などの観察（清澄度、減濁水の現況、動植物の生息）
5. 水源域の自然環境の観察（水源林、保安林、自然林などの現況）
6. 植生や動植物の観察、分布状況

## B、人文系

1. 旧道や峠越えの歴史上での役割（現況や痕跡の確認）
2. 源流点、峠や旧道、名山など標識や活用状況
3. 信仰にちなむ旧跡や遺跡の確認
4. 三角点などの基準点観察（標石の有無、保存状況、特異点、位置）
5. 山村、集落の習俗伝承などの見聞（歴史、信仰、方言、伝説、両側の違いや交流度）
6. 山名、地名、沢名などの採録（別称、いわれ）
7. 周辺の湧水、温泉などの確認や水にちなむ話題

## C、社会系

1. 国境、県境、市町村境界など、地域社会の境界から派生する諸問題
2. 鉄道、道路建設、トンネル、送電塔、通信施設など（現況確認、建設時のエピソード）
3. 分水嶺上に存在するさまざまな施設（山小屋、避難小屋、作業施設、神社仏閣、など）現況
- 4 ◇分水界が通過する特殊エリア（空港、公園、牧場、スキー場、ゴルフ場、演習場、演習林など）
5. 観光や地域開発などとのかかわり（自然景観、将来の観光地候補）

### 3. 大分水嶺MAP作成の試み—大分水嶺を端から端まで一直線に引き延ばして—

「表日本」「裏日本」という表現から「日本海側」「太平洋側」という表現に変わり、様々な場面で使われることがある。どちら側がどう異なるのかという興味を抱いたときに分水界の山や峠を一直線に並べて、関わる道路や鉄道などを交差させて記入してみた。地図とは言い難い地名の羅列であるが、分水界のどちら側にそれらがどういう風に関わっているか、一目で判るようにできないかとの試みである。

激しく屈曲している分水界を直線で表現するとなると、辻褄の合わない所がたくさんでくる。しかし山の頂と鞍部（峠）そして峠の両側に存在する人間の集落。この関係が連続して存在し、道路や鉄道などが交錯する日本列島は様々なドラマが生まれ、歴史が営まれ、新陳代謝していくので、多少の辻褄の合わないところは無視して、大きな眼で漠然と日本列島のスケルトンを追ってみると、いろいろなことが浮かび上がってくる。分水嶺との関わりなくして、列島を論ずることはできないのではないかと思うのである。そして確実に、この自然の作った境界線は今後ますます希薄になり、人間が作った境界線が濃密になっていくのだろう。そこには美しい国土や自然環境を犠牲にしたうえで成り立つ我々の未来が見え隠れする。

### 4. 踏査の意義

山登りの歴史から見ると「点から線へ」変化を遂げていると考えられる。つまり①頂上を目指す～②新しいルートの開拓や一地点から周辺の山を登る～などの「点」から③いろいろな登り方を結びつけての一連の山旅、あるいは縦走などを経て「線」として歩く。それが最近④県境踏破、列島縦断、などの「線から面へ」の試みがなされている。分水嶺踏査もそうした流れの一環として、本格的な「面」としての山ととらえることができる。

一方中高年の〇名山ブームから、そろそろ個性的な登り方や独自のテーマでの登山が目ま

れてきている。分水嶺をとりまくさまざまなテーマは多くのヒントを与えてくれるともいえる。

日本山岳会の100周年記念事業の一環として、日本列島の分水嶺を踏査することに対して、会員の年齢や構成を考慮すると、決して生易しい行事ではない。分水嶺の多くは登山道がなく、ヤブこぎ覚悟で臨むか、積雪期、残雪期しか歩けないところも在る。然しながら日本山岳会の伝統的に息づく困難への挑戦、パイオニア精神を活かせる唯一の国内登山ともいえる。全支部の鋭意をもって臨む価値のある行事ではないだろうか。

## 5. まとめ

### 1、テーマをもった登山～パイオニア精神

- ◇分水嶺上を縦に踏破するという試み
- ◇知り尽くされていない地域の存在
- ◇登山道のない山を歩く、困難さの追求
- ◇ルート上の観察や発見を同時に行う

### 2、全会員の足で完遂させる～JACの連携

- ◇全支部一丸となったイベント
- ◇会員の現状に応じた山歩きの選択
- ◇将来に向けてのあり方を考える

### 3、足元の山々を再認識する～

- ◇日本の山の再発見
- ◇腰をすえて地元の山を直視する
- ◇自然環境の現状を記録し後世に残す

## (参考)

◇分水嶺を通過する市町村-56\* (北海道稚内市,千歳市,福島町,真狩村,大滝村 青森県むつ市,東北町,東通村,田子村 岩手県安代町 秋田県小坂町 山形県米沢市 福島県郡山市,天栄村 群馬県六合村,片品村 長野県塩尻市,臼田町,南牧村 岐阜県白鳥町,高鷲村,清見村,宮村 滋賀県今津町 京都府京北町,日吉町 兵庫県生野町,氷上町,西紀町 島根県六日市町 広島県千代田町,豊平町,八千代町,向原町,豊栄町,神石町,上下町 山口県下関市,長門町,豊田町,美東町 福岡県北九州市,赤村 大分県日田市,久住町,九重町,玖珠町 宮崎県小林市,えびの市 鹿児島県鹿屋市,国分市,垂水市,福山町,大根占町,佐多町)

◇分水嶺に接する市町村-386\* (北海道75青森県20岩手県7宮城県10秋田県11山形県、福島県13栃木県3群馬県13埼玉県1新潟県4福井県10山梨県6長野県40岐阜県18滋賀県5京都府9兵庫県15鳥取県9島根県6岡山県15広島県24山口県17福岡県4熊本県14大分県7宮崎県7鹿児島県15)

\* : 2000年8月分水嶺サミット資料より (四国は省略)

◇一級水系－109河川

北海道：(日本海)天塩川, 留萌川, 石狩川, 尻別川, 後志別川

(オホーツク海)渚滑川, 湧別川, 常呂川, 網走川

(太平洋)鶴川, 沙流川, 釧路川, 十勝川

本州(東)：(日本海)岩木川, 米代川, 雄物川, 小吉川, 最上川, 赤川, 荒川, 阿武隈川, 信濃川, 関川, 姫川, 黒部川, 常願寺川, 神通川, 庄川, 小矢部川, 手取川, 梯川

(太平洋)高瀬川, 馬淵川, 北上川, 鳴瀬川, 名取川, 阿武隈川, 久慈川, 那珂川, 利根川, 荒川, 多摩川, 鶴見川, 相模川, 富士川

本州(西)：(日本海)九頭竜川, 北川, 由良川, 円山川, 千代川, 天神川, 日野川, 斐伊川, 江の川, 高津川

(太平洋)狩野川, 安倍川, 大井川, 菊川, 天竜川, 豊川, 矢作川, 庄内川, 木曾川, 鈴鹿川, 雲出川, 櫛田川, 宮川, 新宮川

(瀬戸内海)淀川, 大和川, 加古川, 揖保川, 紀の川, 吉井川, 旭川, 高梁川, 芦田川, 太田川, 小瀬川, 佐波川

四国：(瀬戸内海)吉野川, 土器川, 重信川, 肱川

(太平洋)那賀川, 物部川, 仁淀川, 渡川(四万十川)

九州：(日本海)遠賀川, 松浦川

(瀬戸内海)山国川, 大分川, 大野川

(東シナ海)筑後川, 矢部川, 六角川, 嘉瀬川, 本明川, 菊池川, 白川, 緑川, 球磨川, 川内川

(太平洋)番匠側, 五ヶ瀬川, 小丸川, 大淀川, 肝属川

◇通過する日本山岳会選定三百名山－57座(天塩岳, 石狩岳, トムラウシ, オプタテシケ山, 十勝岳, 樽前山, 大千軒岳, 八幡平, 烏帽子岳, 秋田駒ヶ岳, 和賀岳, 栗駒山, 船形山, 蔵王山, 一切経山, 安達太良山, 那須岳\*, 男鹿岳, 荒海山, 帝釈山, 至仏山, 平ヶ岳, 巻機山, 谷川岳, 仙ノ倉山, 白砂山, 横手山, 四阿山, 浅間山, 荒船山, 甲武信岳, 国師ヶ岳, 金峰山, 赤岳, 蓼科山, 霧ヶ峰, 鉢伏山, 経ヶ岳, 鉢盛山, 乗鞍岳, 鷲ヶ岳, 大日ガ岳, 位山, 川上岳, 能郷白山, 冠山, 那岐山, 上蒜山, 道後山, 英彦山, 大船山, 九重山, 国見岳, 市房山, 霧島山, 高千穂峰, 高隈山) \*三本槍

◇三冠の山(大分水嶺嶺, 県境, 一等三角点本点)－10座(和賀岳, 船形山, 三本槍岳, 三宝山, 能郷白山, 百里ヶ岳, 仏ヶ仙, 阿佐山, 英彦山, 国見岳,

◇通過する国立、国定公園－23(大雪山, 支笏洞爺, 津軽\*, 十和田八幡平, 栗駒\*, 蔵王\*, 磐梯朝日, 日光, 越後三山只見\*, 上信越高原, 妙義荒船佐久高原\*, 秩父多摩, 八ヶ岳中信高原\*, 氷ノ山後山那岐山\*, 大山隠岐, 比婆道後帝釈\*, 西中国山地\*, 秋吉台\*, 北九州\*, 耶麻日田英彦山\*, 阿蘇くじゅう, 九州中央山地\*, 霧島屋久)

\*国定公園

◇通過する国道－約150

◇通過する鉄道－44

## 講演3 北海道主脈縦走と中央分水嶺踏査

日本山岳会・北海道支部長 新妻 徹

### 1. 点から線へ

北海道大学山岳部(AACH)の学生の頃(昭和25~29)、北海道内の山に登り、帰宅して5万分の1地図に登頂ルート・下山ルートを赤線で記入しているうちに、点と点を結ぶ線(縦走)の面白さを知った。次に引く線をどこにするか? A山に登り、B山まで縦走して、またAに戻るか。B山まで到達できない場合のエスケープ・ルートの選定をどうするか等々、縦走を本番とすれば、本番以前の計画が大きなウエイトを占めることも経験した。そして、関係資料を取り寄せて事前に調査し、実際に自分の足で踏査し、下山ルートなどにデポ旗をつけておくべき自然と天候悪化の恐ろしさも体験した。特に下山地点の尾根の確認は、自分が調査しておかなければ、濃霧の中でも下山可能という安全登山とはならないことを思い知らされた。

点と点を結んでいるうちに、宗谷丘陵→北見山地→大雪山系→日高山脈と北海道の主脈となる太い線が浮かび上がってきた。宗谷岬から襟裳岬までを約1,000kmとすれば、1年間に100kmのペースで縦走して10年間を必要とする。

土、日曜利用の山行でも1回に10kmトレース出来れば、年10回の山行で100kmとなる。しかし、実際には主脈に取り付くアプローチでブッシュにはばまれ退却したり、主脈上の残雪が消えていて這い松漕ぎで難渋したり苦労が多かった。

### 2. 南下か北上か

「磁石の針は北を指す」というが、襟裳岬から北上するか、宗谷岬から南下するかで迷った。どちらからスタートしても苦労は同じだが、高齢になってから日高山脈に入山する意義を私は重く認識している。若い頃の日高の沢と、高齢者にとっての日高の尾根の価値観を体験しておきたい。私にとって日高山脈は神聖な重みのあるエリアである。1パーティで静かに縦走を続けたい。従って私の北海道の正式な線引き名称を「北海道主脈南下縦走」とした。

### 3. 苦労した天塩岳南東尾根(天塩岳→浮島トンネル)

第43次山行(1987 5.23~24 L.新妻徹、井本浩之、原口博人、中島正彦)

JR天幕駅に一人で泊まる。ものすごい風が吹いている。翌朝3名と合流し、浮島トンネル入り口(5:40)→4号ダムを渡河(6:00)→行者尾根取付(7:00)→くじら尾根1236(10:15)→天塩岳山頂(11:30~12:00)→原口尾根P1247(14:00)→中島高原→天塩岳南東尾根P1248(15:00)→渚滑川59線沢に降り浮島トンネル北口(19:00)、13時間行動となり、浮島湿原に迷い込まぬよう残雪を見付けながら這い松を漕ぎ、浮島トンネルの上から北口に駐車してある出発点に戻り安心する。第42次(1987 5.9~10)で、原口、中島と3名で天塩岳南東尾根P1248まで浮島トンネルから往復し、下山ルートを確認したつもりでいたが、2週間後であり残雪が殆ど消えていた。

#### 4. 蟹鉋（かにばさみ）と命名した岩稜帯の通過

第73次山行（1993 6.12から13 L.新妻徹、原口博人、栗村明信）

武華蟹鉋岩と命名したカニのハサミのような岩峰が、武華山のライオン岩の下方に伸びている。ライオン岩への分岐(9:30)→主脈南下し、蟹鉋岩(10:20から12:00)の上をゆっくり往復する。基部は急でトラバース困難。第68次山行から5回にわたる踏査で、やっとクリアした。

#### 5. 連日晴天のラッキーロング・ラン（9日間）

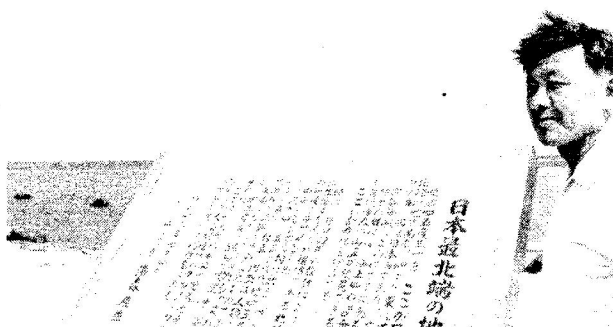
2001年4月28日～5月6日 日高山脈 5名（JAC）

L:新妻徹、SL:田島祥光、助田陽一、助田梨枝子、三戸部清文

ピパイロ川八の沢からP1644（祥山）に登頂し、4月30日ピパイロ岳、5月1日トッタベツ岳、5月3日エサオマントッタベツ岳と晴天の主脈南下縦走を十分に満喫した。

#### 6. GPS（全地球測位システム）活用はグッド・タイミング

2005年に展開する中央分水嶺踏査の際にGPSを活用することは、タイミングの良い企画である。国土地理院発行の地図は日本測地系に基づいて緯度・経度を表示してきたが、平成13年6月20日に測量法が改正され、緯度・経度は世界測地系に基づいて表示することになった。この世界測地系に基づく緯度・経度の値は、東京付近においては現行の緯度・経度の値と比較して、緯度で約+12秒、経度で約-12秒の差となる。これを距離に換算すると、北西方向へ約450mずれることになる。東京天文台の日本経緯度原点から、世界測地系では約1000km離れた札幌の位置が西へ約9m、約900km離れた福岡の位置が南へ約4mの変化となる。この測量法改正は、平成14年4月1日から施行であり、国土地理院では2万5千分1地形図、5万分1地形図、20万分1地勢図に順次世界測地系に基づく緯度・経度の値を併記しているが、実際にそれぞれの支部において中央分水嶺の多くの地点の緯度・経度をGPSに基づいて観測する科学的姿勢は意義の深い踏査となる。明治時代に実施された測地基準点成果を地殻変動の影響をも加えて、人工衛星による地球規模の観測が可能になり、百年目にして行う国家基準点体系の再構築に寄与することにもなろう。



第1次山行 1978.12.29  
宗谷岬にて



第69次山行  
武華ライオン岩にて

(社) 日本山岳会創立100年記念事業「中央分水嶺踏査登山」

北海道分水嶺踏査ルート

地区	ル　　ー　　ト
道北 339Km	宗谷岬→(4.4)丸山→(14.0)モイ山→(28.0)イソノツツ山→(11.3)幌尻山→(40.8)イサヌブリ →(7.4)知駒岳→(14.2)ハツ山→(31.3)函岳→(7.4)加須美峠→(25.8)シツツ山→(9.2)美深峠 →(13.2)ヒヤツ山→(26.7)毛鐘尻山→(36.2)ウヅツ岳→(21.4)藻瀬狩山→(0.7)上紋峠→(19.9) 天塩岳→(13.7)浮島トシ→(9.3)トカツ山→(4.1)北見峠
道東 172Km	北見峠→(11.6)有明山→(8.1)平山→(20.3)武利岳→(4.3)武華山→(7.9)石北峠→ (9.1)三国山→(1.6)三国峠→(6.3)ユニ石狩岳→(4.0)音更山→(2.4)石狩岳→(8.5) 大沼→(7.2)五色岳→(2.8)化雲岳→(5.0)トムツ山→(9.4)コヌブリ→(4.8)オノツ山→ (5.2)美瑛岳→(3.8)十勝岳→(2.0)上和カマツ山→(2.8)境山→(3.8)下和カマツ山→(36.2) 佐幌岳→(5.1)狩勝峠
道央A 146Km	狩勝峠→(13.2)オノツ山→(6.2)日高山脈分岐→(3.6)狩振山→(12.6)トマム山→ (4.4)幾寅峠→(6.1)社満射岳→(15.7)金山トシ→(3.0)老根別山→(56.0)オノツ山→ (25.2)安平山
道央B 137Km	安平山→(12.7)新千歳空港→(21.3)モツツ山→(7.8)樽前山→(9.2)多峰古峰山→(12.7) 白老山(美笛トシ経由)→(21.5)貫気別山→(5.5)橋負山→(19.6)昆布岳→(3.0) 西昆布岳→(12.1)金山トシ→(11.8)静狩峠
道南 271Km	静狩峠→(10.5)写満部山→(25.0)長万部岳→(20.8)美利河峠→(7.0)坊主山→(3.0) ルツ岳→(37.7)太櫓岳(遊楽部岳の肩経由)→(12.6)雲石峠→(4.6)雄鉾岳→(7.6) 沖沢岳→(17.5)乙部岳→(28.3)厚雲峠(中山トシ)→(7.8)雷電山の肩→(22.4)梯子岳 →(5.1)瓜谷山→(26.0)セツ岳→(9.0)大千軒岳→(7.9)百軒岳→(14.2)吉岡峠→(1.2) 白神岳→(2.8)白神岬

\*\*総延長1,065Km

- 実施年 2004年1月から2005年8月
- 実施要領 各ブロックのルートをAランク(登山路あり)、Bランク(やや困難なルート)、Cランク(歩行困難なルート)に分類して、積雪期、残雪期、夏道の踏査計画を立案し、出来るところから一斉に実施する。

分水嶺踏査計画のうち道央地区東ブロック(狩勝峠～千歳)と道央地区西ブロック(千歳～静狩峠)の計画

※東ブロック(網掛け部分)と西ブロック(白地部分)を交互に催行。今のところ、主に当面の東ブロックを詳しく検討した。

No.	月日	日数	登山名	方法	ルート	遠程	人数	備考
1	2004.1.10(土)-12(月)	3日	狩振山 (カワヤマ)	全行程スキー、土曜は入山地泊、登山は1泊2日	上トマム→狩振山1323m→双珠別岳1389m→上川日高十勝3支庁境界点→オダツシユ山とのコル→ルオマンゾフ手林道	分水嶺11km、他8km	3~4人、送迎不要	
2	2004.1.24(土)-25(日)	2日	白老岳	スキー登山	美苗峠→白老岳付近	分水嶺11km、他4km	3~4人、回車役1人	
3	2004.2.7(土)-8(日)	2日	トマム山	全行程スキー、土曜は入山地泊、登山は日曜のみ	幾寅→幾寅峠→1092m山→トマム山1239m→757m山→上トマム	分水嶺6km、他8km	3~4人、送迎不要	
4	2004.2.21(土)-22(日)	2日	樽前山	スキー、アイゼン、ワカン?登山	モラップ→7合目登山口→樽前山頂上外輪山→西山→多峰古峰山手前→湖岸			
5	2004.3.13(土)-14(日)	2日	社満射岳 (シヤマイダ?for シヤマシヤダガ)	全行程スキー、土曜は入山地泊、登山は日曜のみ	幾寅→幾寅峠→国境山982m→社満射岳1063m→幾寅			
6	2004.3.27(土)-28(日)	2日	多峰古峰山 (ツツコフヤマ)	スキー、ワカン?登山	多峰古峰山付近			
7	2004.4.10(土)-11(日)	2日	老根別山	全行程スキー、土曜は入山地泊、登山は日曜のみ	金山峠→老根別山911m	分水嶺3kmを往復	3~4人、送迎不要	
8	2004.4.24(土)-25(日)	2日	貫気別岳 (ツキヘツヤマ)	スキー登山	留寿都リゾート→貫気別岳→竹山付近			
9	2004.5.16(日)	1日	安平山 (アヒラヤマ)	低山ヤブ漕ぎと人里歩き、日帰り	追分町→112m山→安平山166m→自衛隊駐屯地北端→追分町	分水嶺4km、他4km	3~4人、送迎不要	
10	2004.6.13(日)	1日	千歳-支笏湖	日帰り、林道歩き	千歳空港付近→支笏湖畔国道分岐	分水嶺24km	3~4人、回車役1人	
11	2004.7.10(土)-11(日)	2日	(夕張占冠)三角山	林道歩きとヤブ漕ぎ	ニニウ→無名の峠→三角山851m 無名峠まで車で入れれば日帰り	分水嶺2kmを往復、他(林道)9kmを往復	3~4人、送迎不要	
12	2004.8.15(日)	1日	積負山 (ツツイダ)	日帰り、低山歩き	積負山付近			
13	2004.9.19(日)-20(月)	2日	清風山	林道歩きとヤブ漕ぎ	ニニウ→無名の峠→清風山717m 無名峠まで車で入れれば日帰り	分水嶺2kmを往復、他(林道)9kmを往復	3~4人、送迎不要	
14	2004.10.17(日)	1日	モラップ山	日帰り、低山ヤブ漕ぎ	支笏湖畔国道分岐→キムシモツツ山474m→モラップ山507m→樽前山登山車道入口	分水嶺5km	3~4人、送迎不要	
15	2004.11.14(日)	1日	安平山-千歳	日帰り、人里歩き	自衛隊東千歳駐屯地の南縁→千歳空港付近	分水嶺付近15km	2~4人、回車役1人	
16	2004.12.12(日)	1日	留寿都村-真狩村	日帰り、人里歩き	留寿都村→昆布岳の東			
17	2005.1.8(土)-10(月)	3日	オダツシユ山	全行程スキー、山上で2泊3日	狩勝峠→オダツシユ山1098m→新得	分水嶺15km、他5km	3~4人、回車役1人	
18	2005.1.22(土)-23(日)	2日	昆布岳	スキー登山	昆布岳、西昆布岳付近			
19	2005.2.11(金)-13(日)	3日	クオベツ山	全行程スキー、山上で2泊3日	於栗牛沢林道→無名の峠→クオベツ山507m→追分町	分水嶺15km、他8km	3~4人、回車役1人	
20	2005.2.26(土)-27(日)	2日	広島峠-竹山	スキー登山	広島峠→竹山付近			
21	2005.3.19(土)-21(月)	3日	社満射岳-金山峠	全行程スキー、山上で2泊3日	東鹿越→社満射岳1063m→金山峠	分水嶺18km、他4km	3~4人、回車役1人	
22	2005.3.26(土)-27(日)	2日	礼文華峠 (ウツシヤダガ)	ワカン?登山	金山、礼文華峠付近			

全体の延べ人数は 22登山×約4人 = 延べ88人 = 約30人×各3回登山 または 約50人×各2回登山



## 講演4 中央分水嶺、ここが面白い！

堀 公俊（『日本の分水嶺』の著者）

### 1. はじめに

分水嶺とは、文字どおり「水を分ける嶺」のことである。

地表に降った雨や雪は、川となり、最後は海に注ぐ。一本の川に雨や雪が流れ込む範囲を流域（集水域）と呼ぶ。お互いに隣り合う流域の境界線が「分水界」である。降った雨や雪がどちらの川に流れ込むかを分ける境目のことである。そのなかでも分水界が山や尾根にある場合は「分水嶺」と呼ばれる。

実際には、雨水の一部は地下に染み込み、地表とは違った流れ方をしている。そのため地表のそれを「地表（地形学的）分水界」、地下水の方を「地下水（水文学的）分水界」と呼び分ける場合もある。場所によって少し位置がずれていることもあるが、普通は一致していると考えて差し支えない。

つまり二本の川があれば、必ずその間には分水界があることになる。そういう意味では日本列島のどこにでも分水界があるといってよい。そこで一般に分水嶺という時には、「中央分水界」を指すことが多い。

「中央分水界」とは日本海・東シナ海に注ぐ川とオホーツク海・太平洋（含む瀬戸内海）に注ぐ川の分水界を意味する。総延長 3000km を越える一本の線であり、かなりの部分は中央分水嶺として日本列島を二分してそびえ立っている。

中央分水嶺は多彩な魅力を秘めている。分水嶺をはさんでしばしば植生、気候、風景、文化が大きく異なることがある。分水嶺を越えての人、物、情報の交流が日本の歴史を陰で支えてきたと言ってもよい。その上、河川争奪や平地分水界など地理・地学的にユニークなポイントが多数ある。水源として、あるいは観光資源として様々な形で私たちを潤してもいる。

本稿を進める前に、中央分水界の位置をはっきりしておかなければならない。その線引きについて、少なくとも三つの説があるからである。国土地理院編の『日本国勢地図』と全国分水嶺市町村協議会主催の「分水嶺サミット」の資料では少なからず見解を異にしている。環境省の考える中央分水界はまた大きく異なっている。本稿では、国土地理院の考える中央分水界をベースにして話を進めていきたいと思う。

### 2. 北海道編

はるか沖合にサハリンを望む宗谷岬から中央分水嶺の旅は始まる。宗谷丘陵は「周氷河性波状地」と呼ばれる氷河期の名残を示す地形である。高緯度地帯であるために、低い標高の山地に氷河地形が残っている例である。

宗谷丘陵から北見山地、さらに大雪山系から日高山脈を経て襟裳岬にいたる分水界は、日本山岳会・北海道支部の新妻徹氏らのグループと工藤英一氏によって縦走されている。だが、正確に言えば北海道の中央分水界は石北峠、三国峠を越えてから、大雪山系の南端、石狩岳、トムラウシ山を通過して十勝連峰に入る。

十勝岳から上ホロカメットク山を越えた中央分水界は、佐幌岳（サホロスキー場）の少し南で

国道38号線とJR根室本線が越える狩勝峠にいたる。根室本線のバイパスとなっている石勝線は、西進する中央分水界と4回にわたって交差する珍しい路線である。

追分の辺りで平野部に下りてきた中央分水界は、石狩平野と勇払原野にかけての低地帯を横断する。ここでは地形図を見ても現地を見ても、中央分水界がどこを通っているのか判然としない。おそらく千歳空港の中を通り抜けるものと思われるが、この辺りは標高20mほどしかない。日本の中央分水界の中でもっとも低いところである。

さらに西に進むと、中央分水界は支笏湖の南を通り、洞爺湖では北側を通る。これはなぜだろうか？ 支笏湖でも北側を通る方が自然なのだが、支笏湖周辺の大噴火によって、もともと太平洋に流入していた石狩川が日本海へと流路が変わってしまったからである。それに伴って中央分水界も移動したというのが真相なのである。

長万部に近い静狩というところでは、中央分水界は限りなく太平洋に近づいている。その距離は約300mしかなく、北側の日本海までは30kmと極端なアンバランスがある。中央分水界は日本列島の中央を貫いているとは限らないのである。

### 3. 東北編

本州の中央分水界は、津軽半島の北端の竜飛岬に始まる。北海道の白神岬と竜飛岬を隔てる海峡の直下を、中央分水界に沿うように青函トンネルが走っている。竜飛岬にいたる国道339号線は、竜飛漁港から竜飛灯台までの388mがなんと361段の階段となっている。世にも珍しい階段国道である。

奥羽山脈は、八甲田から足尾山地にいたる、南北450kmに及ぶ日本最長の山脈である。標高としては、最高峰の岩手山でようやく2000mを越す程度で、大したことはない。その全長が太平洋と日本海を隔てる中央分水嶺である。

歴史的に見れば、奥羽山脈は東西の交通の障壁であった。ところが、この山脈には貝梨峠、巢郷峠、関山峠、中山越えなど標高の低い切れ目があり、東西の交通の連絡路としての役割を果たしてきた。現在でも、これらの峠には、東西を結ぶ国道、鉄道が集中している。その切れ目の間には、蔵王など東北を代表する山々がそびえている。

猪苗代湖は、正確に言えば日本海側の水系に属するが、今では人工的に作られた安積疎水を通じて太平洋にも水を流している。猪苗代湖は、二つの海の接点という性格を持っている珍しい湖である。

### 4. 関東中部編

那須連峰は、ロープウェイのかかった茶臼岳が有名であるが、連峰の最高峰は三本槍岳である。中央分水界は三本槍岳から西に進んで、大峠、大倉山、三倉山、さらに男鹿岳から会津西街道の通る山王峠へとつながる。そして、栃木・福島県境の荒海山、田代山、帝釈山を越えて尾瀬に入る。

尾瀬では南側の山々が中央分水嶺であり、県境はそこにあるのが自然な姿である。ところが県境は、湿原の真中を横切っており、尾瀬の大部分は群馬県に属している。これには電源開発や取水権の問題がからんでいたらしい。現在では尾瀬沼の水は片品川に導水され、太平洋にも注いでいる。人為的に分水界が変えられた例の一つである。

中央分水界は、平が岳から巻機山を過ぎて、登山道国道が越えている清水峠にいたる。そして、

遭難で世に名高い谷川連峰へと続いている。谷川岳周辺では、地形にせよ気候にせよ、表日本と裏日本が極端なコントラストを見せている。

三国街道の三国峠と中津川林道の三国峠の間には、碓氷峠をはじめ多くの峠が中央分水界を横切っている。峠と峠の間の山道は厳しいところが多い。西の三国峠からは、甲武信岳、国師岳、金峰岳と、奥秩父の名峰が中央分水嶺を形作る。そして、信州峠を経て八ヶ岳の主峰赤岳に駆け登って行く。

さらに、北八ヶ岳から霧ガ峰を通過して和田峠にいたる。和田峠は中山道が分水嶺を越える峠で、塩尻峠とともに中山道の要衝である。中山道と中央分水界は、もつれあいながら西へと進む。塩尻峠のすぐ西にある善知鳥（うとう）峠から、中央分水界は南に大回りをする。奈良井川が北から中央アルプスに深く食い込んでいるためである。

そして、権兵衛峠を越え、木曾駒ヶ岳の山腹から一転して北に向かう。権兵衛峠から野麦峠を経て乗鞍岳までは登山道もなく、中央分水界を辿る道筋の中でも屈指の難所である。乗鞍岳は中央分水界中で唯一の 3000m 峰で最高所でもある。

やがて、宮峠で高山本線と国道 41 号が中央分水界とクロスする。宮峠の南、久々野町では 1999 年に第 10 回「全国分水嶺サミット」が開かれている。1988 年に兵庫県氷上町の呼びかけに応じて開かれた「水わかれのまちサミット」がこのイベントの始まりである。中央分水嶺が所在する全国の 500 の市町村のうち、40 の市町村が名を連ねる「全国分水嶺市町村協議会」が、持ち回りでサミットを開催している。

宮峠の西、刈安峠には分水嶺公園があり、人工的に作られた水中分水界がある。さらに西の「ひるがの分水嶺公園」では、大日ヶ岳のふもとに端を発する一本のせせらぎが、太平洋と日本海に分かれて行くさまが見られる。自然の川ではこのようなケースは殆どなく、いずれは勢力の強い方に収斂されていく。ここも人工的な分水界であるが、一見するとそうとは判らないほどよくできている。ここより越美国境の山を一つひとつ越えながら、やがて中央分水界は近畿地方に入る。

## 5. 近畿編

北国街道が中央分水界を越える枳ノ木峠は、なんと日本海からわずか 5km しか離れていない。極端に日本海側に寄っているのは、琵琶湖が南から少しずつ移動したためである。いまでも琵琶湖は北に移動し続けているというから、今に中央分水界はなくなってしまうかもしれない。

丹波篠山から瀬戸内海（太平洋）に流れる宮田川を源流に辿っていくと、中央分水界の一部である鼓峠につく。ここは平らな斜面から突然深い峡谷に変化しており、一般的な峠のイメージとは随分違う。初めに源流部が接近した二本の川があり、浸食力の強い川がどんどん源頭部を削ってゆき、ついには浸食力の弱い川の水が浸食力の強い川に流れ込んでしまう。いわゆる「河川争奪」という現象によって生じた「片峠」なのである。その場合、分水界は突然離れた場所に移動することになり、その後には「谷中分水界」が形成される。

兵庫県氷上郡氷上町は、本州では最も標高の低い中央分水界（95m）がある町として知られている。瀬戸内海に流れる高谷川の源流では、数個の石で堰を作っただけで南と北に水が分かれて流れている。兵庫県は、本州で唯一の太平洋と日本海にまたがる県であり、そうなったのはこのような分水界の低さに由来するという説がある。氷上町は「分水嶺サミット」の発起人でもあり、中央分水嶺の中心といってよいだろう。

## 6. 中国編

氷ノ山は中国地方第2位の標高を持つ山である。中央分水界はこの山の中腹から南に折り返す。ここからしばらくは、鳥取県境に沿って中国山地を西に向かう。ウラン鉱で有名な人形峠の辺りでは、中央分水界は著しく日本海に寄っている。そのために鳥取県は南北に狭い県となっている。人形峠、蒜山から道後山へは登山道が整備されていない。

道後山から大きく南進する中央分水界は、県境を通らずに広島県を縦断する。山口県に入ると、石灰岩からなるカルスト台地・秋吉台が現れる。この辺りは、地下に鍾乳洞を持ち、地表では水の流れの定かでなく、中央分水界が判り難い。おそらく、地下水の流れを調べないと、中央分水界を特定できないだろう。標高の高くない中国山地が、中央分水嶺踏査にとって一番の難所であることは、逆説的で面白い。

## 7. 九州編

『日本国勢地図』によると、九州の中央分水界は遠賀川右岸の水巻町からスタートしている。ここは二つの海を隔てるようなポイントではなく、どうしてここが分水界なのか理解に苦しむ。本稿では、壇ノ浦から九州に上がってきた中央分水界は、門司を經由して平尾台カルストにいたると考えて話を進めることにする。

平尾台カルストからは英彦山を経て、その名も分水界らしい水分峠にいたる。ここは現在では、JR 久大線、大分自動車道、国道 210 号線の通る交通の要衝である。中央分水界の西側を流れる筑後川周辺は、吉野ヶ里遺跡をはじめ邪馬台国と関連があるとされる場所が多い。

さらに、九重から阿蘇外輪山の東側に位置する高森峠にいたる。高森峠には、熊本と延岡を結ぶ鉄道トンネルが掘られ、両市が鉄道でつながる予定であったが、ところが、とんでもない量の湧水にぶつかり、あえなく頓挫してしまった。今ではトンネル跡が「高森湧水トンネル公園」として整備され、地下を水源まで歩けるようになっている。

阿蘇から九州中央山地を抜けて、中央分水界は霧島連峰に入る。大淀川水系の石氷川と川内川水系の池島川の間には、水路のような短い川が地形図に描かれている。これが両河川の分水路であるとしたら、この辺りで中央分水界は途切れていることになる。実際にどうなっているかは現地を見ていないので判然としないが、分水嶺ハンターにとっては興味深いポイントである。

霧島を越えて大隈半島に入ると、ヒマラヤ山麓と同じ照葉樹林帯となる。文化的にも共通の要素があることが知られており、照葉樹林帯は日本文化のルーツであるとも言われている。そして、九州最南端の佐多岬で、総延長 3000km を越えた中央分水界は、太平洋の大海原の中に沈んで行く。

北海道最北端の宗谷岬から九州最南端の佐多岬まで、駆け足で日本の中央分水界を辿った。本稿で紹介できなかった興味深いポイントもたくさんあり、全てを説明し尽くすことは困難である。中央分水嶺の魅力の一端を感じてもらえれば本望である。

## パネル・ディスカッション

### 「分水嶺についておおいに語る」

司 会：森 武昭（中央分水嶺踏査委員会事務局長）

パネラー：星埜由尚、近藤善則、新妻 徹、堀 公俊、藤本慶光（日本山岳会総務担当  
理事）各氏

始めに中央分水嶺踏査委員会事務局長の森 武昭氏から、（社）日本山岳会創立100周年記念事業のうち、国内登山に関する「中央分水嶺踏査」の進捗状況全般について、現状報告をしていただく予定である。ついで総務担当理事の藤本慶光氏から、中央分水嶺踏査の実行のためには、各支部のご協力を頂くことが重要であることをお話する。

そのあとは、司会者とパネラーの間で、適宜、分水嶺踏査について必要なこと、興味深いことなど、会場と一体になって検討して頂くことになろうかと思う。必ずしも十分な時間があるとはいえないが、時間内で可能な限りのディスカッションを行っていただきたい。参加者の方々はおおいに、パネラー諸氏に質問や要求をぶつけていただきたいものと考えている。

## 演者のプロフィール

### 1. 星 埜由尚（ほしの・よしひさ）

東大院修了。73年建設省入省。国土地理院測図部長、企画部長を経て99年 参事官、02年国土地理院長、04年同退任。東京都出身。

### 2. 近藤善則（こんどう・よしのり）

1947年東京都出身。器具メーカーを経て1997年ヒカリ工房（照明デザイン、機器設計）設立。幾徳工専（現神奈川工科大）山岳部OB。

（社）日本山岳会・科学委員会委員。

### 3. 新妻 徹（にいづま・とおる）

1954年北大農学部卒。北大山岳部OB。1992年北海道厚真高等学校校長を最後に退任。道北の山、知床、日高山脈の厳冬期登攀で活躍。

1998年から（社）日本山岳会・北海道支部長。

### 4. 堀 公俊（ほり・きみとし）

1960年神戸市出身。阪大院修了。コミュニケーション・コンサルタント。日本ファッションリレーション協会会長。日本全国の分水嶺を訪ね歩き、紀行ライターとしても活動。著書に『日本の分水嶺』など多数。

### 5. 森 武昭（もり・たけあき）

神奈川工科大学教授（電気電子工学）。（社）日本山岳会常務理事を経て現在評議員。科学委員会委員、山岳研究所運営委員会（ミニ水力発電小委員会委員長）。中央分水嶺踏査委員会事務局長。

# 資料編

## 計画の概要

本計画書は、2005年10月に日本山岳会（JAC）が創立100周年を迎えるのを記念して、北海道の宗谷岬から九州の佐多岬まで中央分水嶺を踏査しようという試みである。JACの現状を踏まえて無理のない範囲で、一つの旗の下に出来るだけ多くの区間をなるべく多くの会員で踏査することを目指した企画である。

### 1. 目的

- (1) 出来るだけ多くの会員の参加
- (2) 多少なりともパイオニア的精神を生かせること（困難性を含む）
- (3) 少しでも参加者の連帯感がもてること（一本の線で結ぶ）
- (4) これからのIT時代に相応しい企画を盛り込む
- (5) 可能であれば、その他の科学的または文化的要素を盛り込む

### 2. 登山計画

- (1) 各支部及び首都圏の担当する区間を決定し（別紙が委員会案）、各区間について調査や予備的登山を通じて、次の3つに区分する

- A. 登山道が整備されていて、それほどの困難さを伴わない区間
- B. ある程度の藪こぎやザイルの使用などにより何とか行けるであろう区間、または積雪期なら行けるであろう区間
- C. とても歩行は困難な区間

実際には、A区間は100%歩き、B区間は可能な限り歩くかまたはスキーで滑り、Cは線としては省くが、途中にあるピークや峠は点として可能な限り登る。

- (2) 実際の登山は担当の各支部に委ねるが、それぞれの実情に応じて次のような方法から選択するものとする。ただし、詳細な分水嶺のルートは各支部の検討に委ねることとする。

- ① 自らの支部で全てを実施する
- ② 支部が中心となって実行するが、実際に歩く者やサポートする者は広く会員から募集する
- ③ 支部が中心になってやるのには負担が大き過ぎて難しいが、本部が中心になって実行するのであれば出来る限りのサポートをする
- ④ 今回設定している期間内での実行は困難なので、支部で以前に実施した県境登山などの報告書で代用し、今回は空白区間のみ試みる
- ⑤ 実情ではとても実行（協力を含めて）は困難

なお、中央分水嶺が通っていない、静岡・東海・富山・石川の各支部は近隣支部との協力などの形で、当計画へ参加することを前提としている。首都圏（本部）は、群馬県などを中心に一部区間を担当する。

### 3. 調査活動

山行報告書用（一日A4一枚）の書式は別紙の通り。

三角点の保存状況と2万5千分の1の地図との相違点については国土地理院に委員会を通して報告する予定。

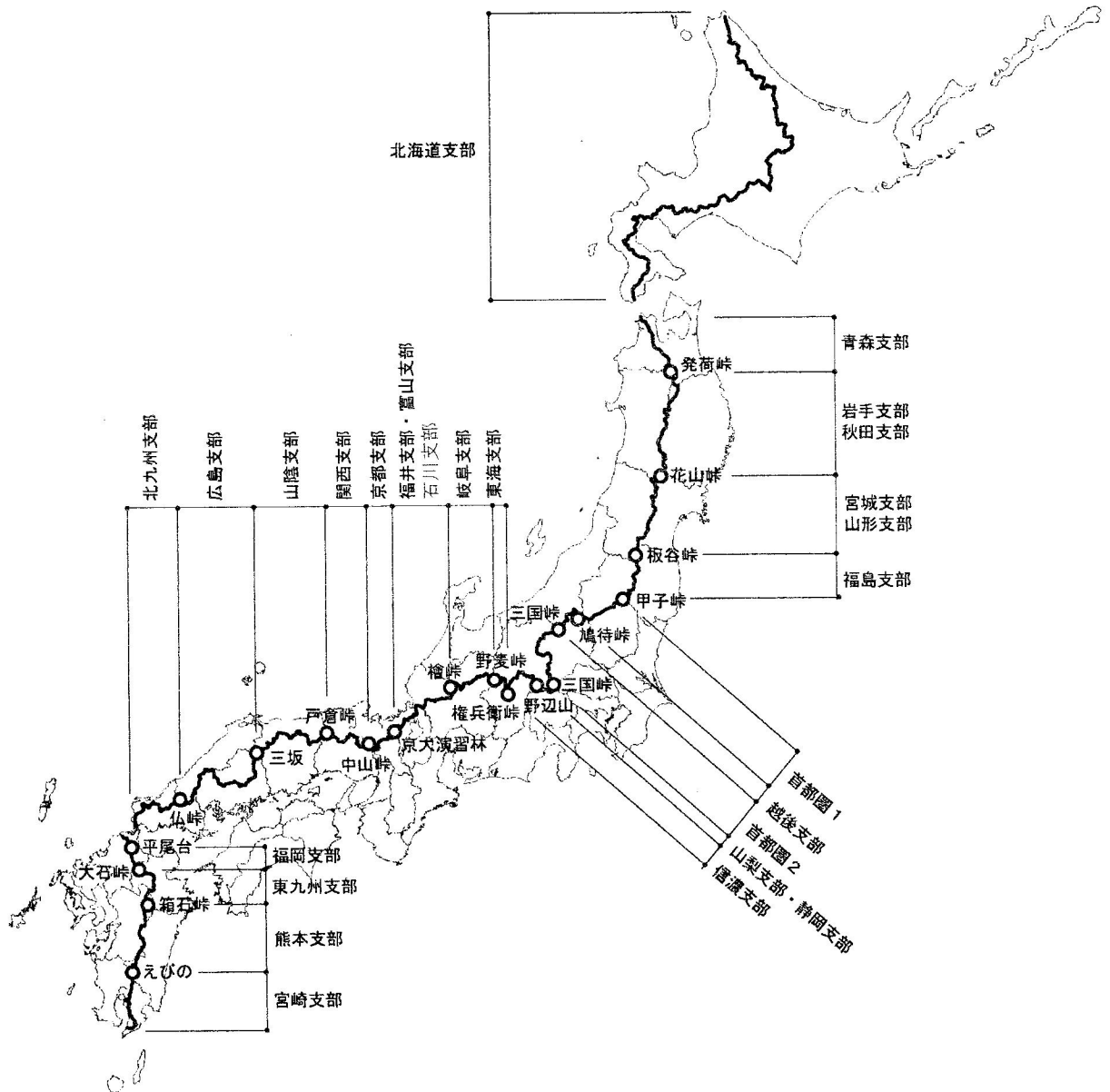
また、ホームページを最大限に利用し、進捗状況を常時公開する。

提出された山行報告書は、パソコン入力し、集大成したものを資料編として、CD-ROMで配布及び保管する予定。また、この資料編をもとに最終報告書を作成する予定。

### 4. スケジュール案

- ① 2003年8月：計画書（担当区間を含む）の素案を提示
- ② 2003年12月の支部長会議で計画書の大筋を承認（この間に支部とのやり取りなど情報交換）
- ③ 2003年9月～2004年3月：予備的登山及び現地調査実施
- ④ 2004年3月：計画書の最終案決定（各支部の計画書を提出してもらう）
- ⑤ 2004年4月～2005年9月：登山活動実施
- ⑥ 2005年10月：100周年記念式典で速報報告
- ⑦ 2005年10月～2006年3月：登山活動の追加
- ⑧ 2006年12月：最終報告書完成（年次晩餐会で発表）

# 分水嶺地図と支部担当区域 (案)





# 分水嶺踏査報告 秋田支部

## JAC 創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(9)は必ず記入してください。(i)~(iii)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部: 秋田	(2) 記載者氏名: 佐々木民彦	会員番号: 5748	事務局整理記入欄
分水嶺区分	甲山分岐~ 沢野+奥谷峠	(3) 山行日: 2003年9月28日	(4) 天候: 晴 時々曇り

(5) 参加者氏名および会員番号				サポーター要員氏名および会員番号			
佐々木民彦	5748	柳田勇規	10651	石川祐子	13275	伊藤孝雄	13709
福田光子	7585	鈴木裕子	11280	文橋忠雄	13127	佐藤智弘	13894
土肥貞之	10276	川口広志	13120	浅野茂春	13128	鈴木茂男	非会員
今野昌雄	9492	鎌田倫天	11788	柴田 勲	13675		
●印 C.L				計 15名			

### (6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	羽奥山脈中部(秋田岩手界隈) 甲山(曲甲)分岐~中沢岳~沢野~鹿ノ山分岐~奥谷(峠) 峠越											
770子(奥木班)	奥木班...甘露水まで車、 峠越班...峠越(登山)まで車、 交差登山(南沢野+分岐) 峠越											
地点コード	地点名	経度E			経度N			高度 m	所要時間	道の状況	(8)及び(i)~(iii) 特記事項等との関係	
		度	分	秒	度	分	秒					
① 歩行開始点	甘露水	140	43	18.90	39	32	11.22	430.				
② 分水嶺到達点	甲山分岐	140	44	30.07	39	31	46.90	955.	0	A-1	8.	
③	中沢岳	140	46	29.30	39	31	12.07	1057.	0:30	A-1	6.	
④	沢野	140	43	28.07	39	30	40.20	1014	1:00	A-1	2, 5, 6.	
⑤	南沢野1020	140	43	38.07	39	30	05.73	1016	0:25	A-1		
⑥	P 850	140	43	01.90	39	29	45.89	849	0:25	A-1		
⑦	川口分岐	140	43	11.40	39	29	17.40	753	0:25	A-1	3, 4, 7, 9.	
⑧	P 840	140	43	11.43	39	28	32.37	826	1:25	A-1	1. (P840未満)	
⑨ 分水嶺離脱点	峠越峠	140	41	53.33	39	27	47.48	900.	2:05	A-1		
⑩ 歩行終了点	同上										(各谷に長時間)	
(7) 三角点の位置と保存状況									総歩行時間	6:15	総所要時間	8:45
(上記(6)の②~⑨の該当番号を記入してください)	点名	等級	方位	保存状況	特記事項							
	P1020(南沢野)	II	正常	良好	周辺は川取の谷に下降して、地上5cm露出							

### (8) 人工施設の現況および地形図との相違点

- 地形図の「鹿ノ山」は「鹿ノ子山」であり、地理院の誤り
- 奥谷山側(南)登り沢野への登山道の新設と、(七)沢野峠(奥谷山側)に終点の登山口(地形図)
- 川口分岐(南)登り川口分岐(北)への登山道の新設と、和賀川の支流の沢野(B-1) 修正結果
- 川口分岐の南沢野峠と奥谷川(下)の登山道(下)の登山道と、22Rは川口分岐(北)への登山口有り。
- 沢野は「かきく」、地理院の「かせく」は誤り。

### (i) 水および植生に関連した特記事項

- 中沢岳北の沢野には、野にオサバグサの群生有り。
- P850と川口分岐(北)の中沢P付近にオサバグサ(天然)の群生地有り(地形図にA-E入るはずあり)

### (ii) その他の特記事項

- 地形図の甲山は曲甲と呼ぶ。北にあるP1108は大甲と呼ぶ。別登山口分岐の下部と、川口
- 川口分岐は落政期(昭和30年)に廃止の登山道。
- 登山コース全体の、フナ林多し。程林地なし(北沢、沢野、川口)。各山頂、P毎にシロクサ、ナカバネ、ササキ等有り。

### (iii) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:

## 分水嶺踏査報告 北海道支部

### J A C 創立 100 周年記念国内登山（中央分水嶺踏査）の山行報告書

(1)～(6)は必ず記入してください。(i)～(iii)は、気づいた事項が有れば記入してください。

(1)担当支部：北海道		(2)記載者氏名：新妻 徹		会員番号：5868		事務局整理記入欄	
分水嶺区分		宗谷岬	～丸山～	134 地点	(3)山行日：2004年1月3日		(4)天候 風雪
(5)参加者氏名および会員番号				サポート要員氏名および会員番号			
新妻 徹	5868						
長谷川雄助	6103						
漆崎 隆	13040						
計 3 名				計 名			

(6)山行記録・位置確認（出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して）・所要時間・道の状況

コース概略：		宗谷岬～～灯台～～丸山～～134 地点										
アプローチ：		宗谷岬黒牛牧場まで車使用										
	地点コード	地点名	経度 E			緯度 N			高度 m	所要時間	道の状況	(8)及び(i)～(iii) 特記事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒				
①	歩行開始点	宗谷岬	141	56	11	45	31	22	2			
②	分水嶺到達点	宗谷岬	141	56	11	45	31	22	2	0	A-1	
③		丸山	141	55	55	45	29	08	120	2:00	A-2	8
④		134 地点	141	55	23	45	28	44	134	0:30	A-2	i
⑤		丸山	141	55	55	45	29	08	120	0:30	A-2	8
⑥												
⑦												
⑧												
⑨	分水嶺離別点	宗谷岬	141	56	11	45	31	22	2	2:00	A-2	
⑩	歩行終了点		141	56	11	45	31	22	2	0		
総歩行時間										5:00	総所要時間	5:00

(7)三角点の位置と保存状況

(上記(6)の②～⑨の該当番号を記入してください)	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
③、⑤、△167.3					稚内分屯地司令「立入禁止」区域内

(8)人口施設の現況および地形図との相違点

△61.2 から 83 地点（電波塔あり）までの道路沿いに約 2km にわたり宗谷岬肉牛牧場があり、道路は丸山まで舗装されている。  
△167.3 の丸山は稚内分屯地司令「立入禁止」の表示があり、GPS測定はそのゲート前で実施した。

(i) 水および植生に関連した特記事項

宗谷丘陵は樹木がなく、積雪約 20cm の広大な地域であり、吹雪、濃霧になると中央分水嶺は不明となる。丸山からの南下は方向確認に要注意。多くの沢が複雑に入りこんでおり、沢の源頭は V 字谷が見られる。

(ii) その他の特記事項

宗谷岬から、約 40km の北方に旧日本領（樺太）のサハリン海岸が望まれたが、丸山の東 1km（地図上 89 地点）から南方へ延びる旧軍事道路跡が確認できた。中央分水嶺に沿って約 10km 南下している。

(iii) 写真の添付（有りの場合には、写真説明を記入してください）

--

## 分水嶺踏査山行報告書記入にあたって

### [全般的事項に関する注意点]

- ① 1日の山行に1枚使用してください。
- ② (1)～(8)は必ず記入してください。(i)～(iii)は気づいた事項があったら記入してください。
- ③ 書ききれないときは、裏面(2ページ目)を使ってください。
- ④ 記入は、できるだけWORDでお願いします。難しい場合は、手書きでも結構です。記入が終わりましたら、メール・FAX・郵送のいずれかの方法で下記へ送付願います。WORD版の報告書フォーマットは下記メールアドレスへ申し込んでください。

送付先: 森 武昭 (分水嶺実行委員会事務局長)

e-mail : [bunsuirei@jac.or.jp](mailto:bunsuirei@jac.or.jp)

FAX : 03-3488-4670 (深夜はご遠慮願います)

郵送 : 〒201-0005 東京都泊江市岩戸南3-13-6

問い合わせについても、上記と同じです。電話はFAXと同じ番号です。

### [個別の記入事項に関する注意点]

- (1) 担当支部 : 山行に際して割り当てられた支部名を記入してください。
- (2) 記載者氏名 : 記載はリーダーまたはリーダーが指名した者が担当してください。分水嶺区分は事務局で記入いたします。
- (3) 山行日 : 西暦で記入してください。
- (4) 天候 : 山行時の天候を記入してください。なお、積雪期には、コース上の平均的な積雪量を記入してください。
- (5) 参加者氏名および会員番号 : 8名を超えたときは、合計欄に参加者の総数を必ず記入してください。超えた分は、裏面(2ページ目)を使っていただいて結構です。  
サポート要員 : 8名を超えたときは、合計欄に必ずサポート要員の総数を記入してください。超えた分は、裏面(2ページ目)を使っていただいて結構です。
- (6) 山行記録・位置確認・所要時間・道の状況 :  
山行コース上の主要な点(ピーク、峠など)のGPSによる測定結果を記入してください。なお、測定が不可能なときはその旨、明記願います(できれば、考えられる理由も)。①と②、⑨と⑩が同一点の場合には、①と⑩は記入しなくて結構です。測定ポイントが多いときには、裏面(2ページ目)に記入してください。  
次に、主要な点の到着・出発時刻を分単位まで記入し、1日の所要時間および休憩時間を除いた実際の歩行時間を記入してください。  
道の整備状況は次の中から記載者の主観で選んでください。  
(A-1) 登山道・道標とも良く整備されていて問題なし  
(A-2) 登山道はしっかりしているが道標がなく多少の不安を感じる  
(B-1) 藪こぎはないが踏跡程度しかない  
(B-2) 軽い藪こぎの程度  
(B-3) きつい藪こぎ  
(B-4) 積雪期に歩行またはスキーで可能
- (7) 三角点の位置と保存状況 : 三角点の位置と高度は(6)のどこのデータが対応しているか、番号で記入してください。方位は、三角点の南向き(字が書かれている面)のGPSまたはコンパスによる測定結果を記入してください。ただし、コンパスでの測定は、三角点近傍に磁石を狂わせるような金属類が無いから良く確認してから行ってください。
- (8) 人工施設の現況および地形図との相違点 : 分水嶺上または分水嶺を横切っている人工施設(鉄道・車道・林道・送電線・山小屋・アンテナ塔など)に関して、1/2.5万の地形図との相違点がないかなどの現況を記載してください。
- (i) 水および植生に関連する事項 : 分水嶺に由来するそれぞれの河川名など水に関連した特記事項および分水嶺上の植物(特に高山植物)・樹木に関連した特記事項を記入してください。
- (ii) その他の特記事項 : 分水嶺を境とした科学・文化の相違点など何でも結構です。お気づきの点を列挙してください。
- (iii) 写真の有無 : 写真がある場合は、簡単な説明文を記載してください。写真は原則として1枚とし、郵送(大きさは原則としてサービスサイズ)または画像として添付ファイルで送付してください。